

➤ 19日 水曜

ヨシュア

6:1 エリコはイスラエルの子らの前に城門を堅く閉ざして、出入りする者はいなかった。
6:2 【主】はヨシュアに告げられた。「見よ、わたしはエリコとその王、勇士たちをあなたの手に渡した。
6:3 あなたがた戦士はみな町の周りを回れ。町の周囲を一周せよ。六日間そのようにせよ。
6:4 七人の祭司たちは七つの雄羊の角笛を手にして、箱の前を進め。七日日には、あなたがたは七回、町の周りを回り、祭司たちは角笛を吹き鳴らせ。
6:5 祭司たちが雄羊の角笛を長く吹き鳴らし、あなたがたがその角笛の音を聞いたら、民はみな大声でときの声をあげよ。そうすれば町の城壁は崩れ落ちる。民はそれぞれ、まっすぐに攻め上れ。」
6:6 ヌンの子ヨシュアは祭司たちに呼びかけた。「契約の箱を担ぎなさい。七人の祭司たちは七つの雄羊の角笛を持ち、【主】の箱の前を進みなさい。」
6:7 そして民に言った。「進んで行き、町の周りを回りなさい。武装した者たちは【主】の箱の前を進みなさい。」
6:8 ヨシュアが民にそう言ったとき、七人の祭司たちは、七つの雄羊の角笛を持って【主】の前を進み、角笛を吹き鳴らした。【主】の契約の箱はそのうしろを進み、
6:9 武装した者たちは、角笛を吹き鳴らす祭司たちの前を行き、しんがりは角笛を吹き鳴らしながら箱のうしろを進んだ。
6:10 ヨシュアは民に命じた。「あなたがたはときの声をあげてはならない。声を聞かせてはならない。口からことばを出してはならない。



い。『ときの声をあげよ』と私が言うその日に、ときの声をあげよ。」

6:11 こうして【主】の箱は町の周りを回り、その周囲を一周した。彼らは宿営に帰り、宿営で夜を過ごした。

6:12 翌朝ヨシュアは早く起き、祭司たちは【主】の箱を担いだ。

6:13 七人の祭司たちは、七つの雄羊の角笛を持って【主】の箱の前を進み、角笛を吹き鳴らした。武装した者たちは、彼らの先頭に立って行き、しんがりは角笛を吹き鳴らしながら【主】の箱のうしろを進んだ。

6:14 彼らは二日目も町の周りを一周回り、宿営に帰った。六日間そのようにした。

エリコの城壁を攻撃する方法は、人間の常識を超えたものでした。そのやり方には何の論理的な根拠もありません。ただ主がお命じになったというだけです。しかし、そこには信仰的な根拠がありました。

七回まわるということについては、七は完全数を表しますから、主への従いが十分であることを表します。城壁の周りを歩くというのは、攻撃されやすいですから、そこには主に委ねてリスクを負う信仰の勇気があります。

この世の常識に沿うことでしたら、主に従いやすいのですが、主はときとして私たちに常識を超えた従いを要求なさいます。それは私たちに主御自身に従う信仰があるかどうかを、試すためでもあります。

もちろんそこには主の全能の知恵があることは言うまでもありません。自分の判断よりも主の御命令、みこころを第一としましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

